

スズクグループ

# 環境社会報告書



スズクホールディングス株式会社

# 循環型社会の形成に向け、 スズクグループは 総合リサイクル業に邁進します。

「環境の世紀」と言われる21世紀。温暖化や環境汚染など、人類の生存を脅かす地球規模の環境問題に直面する私たちは、「大量生産・大量消費・大量廃棄」という旧来の社会システムからの変革を迫られています。限りある天然資源を次世代へ引継ぎ、社会が持続的に発展し続けるためにも、資源リサイクルの推進による「循環型社会の実現」が求められています。

私たちスズクグループは、こうした社会の要請に応えるべく、使用済み製品から鉄や非鉄金属、プラスチックなどを再生資源化する、総合リサイクル事業を展開しています。「社会の公器」として、お客様から安心して処理をお任せいただけるよう、事業施設の改革に努め、スピーディーに環境の変化に対応できる体制を整えています。こうしたなか、2009年4月には、新たに2つの主要拠点を開設しました。高い処理の品質と能力を有し、環境影響にも配慮した新施設は、循環型社会における有力な資源リサイクル拠点として期待されています。

今年、スズクホールディングスは発足2年目を迎えました。これまで、グループ内の財務やコンプライアンス、環境、ITシステム、労働安全衛生などマネジメント機能の統合を進めており、グループ経営において徐々にその効果が現れてきています。2008年秋口から一気に広がった世界同時不況はあらゆる産業に深刻な打撃を与え、資源リサイ

クル業にも大きな影響を及ぼしていますが、こうした厳しい経営環境にも揺るがない強固な企業体制を構築しつつあると考えています。

私たちグループの企業理念は、「4つの責任」を基盤として「全てのステークホルダーの満足度を最大化していく」ことです。特に、グループを支える社員に対する責任を重く受け止め、大切に処遇します。そして、全社員と各社の意欲と創意工夫に基づく行動で、この困難に立ち向かっていく所存です。

グループの(株)鈴徳は創業105年、中田屋(株)は58年を迎えました。事業をこのように長く継続できたのは、お客様、地域、社員、株主各位のご支援の賜物です。私たちは企業理念を愚直に守り、総合リサイクル業の担い手として、循環型社会の実現に尽力していくことをお約束いたします。

スズクホールディングス株式会社  
 代表取締役社長 鈴木 孝雄



## スズクグループ企業理念

スズクグループ9社は、「4つの責任」を企業理念とし、  
 循環型社会の形成に貢献します



**1. お客様に対する責任  
for Customer**  
 すべてのお客様・お取引先との共存共栄を第一とします。そして、可能な限り質の高いサービス・品質で皆さまのニーズにお応えします。

**2. 社員に対する責任  
for Employee**  
 社員を個人として尊重し、その能力・技術が最大限発揮できるよう、公正で風通しがよい組織、また安全で働きやすい職場環境をつくります。

**3. 社会に対する責任  
for Society**  
 常に社会の一員であることを自覚し、法令並びに社会ルールを順守して地域との共生を図ります。また環境配慮に努めつつ資源リサイクル事業を進めます。

**4. 株主に対する責任  
for Stockholder**  
 バランスのとれた健全かつ安定した経営を続け、適正な利潤の確保と事業の発展に努め、株主に対して適正な配当を行います。

### 編集にあたって

本報告書は、グループ各社の持ち株会社スズクホールディングス(株)の設立(2007年7月2日)後、2回目の環境社会報告書となります。スズクグループの企業理念である「4つの責任」に則り、環境・社会全般にわたる取り組みを包括的に記載しています。グループをご理解いただくための一助となるよう、今後も更に報告内容の充実を図ります。

■ 報告対象範囲  
 スズクホールディングス(株)とグループ会社8社を報告対象としています。(22-25ページ参照)

■ 対象期間  
 2008年7月から2009年6月  
 ※グループ各社の経営数値や環境負荷の数値などは、用いた期間を明記しました。

■ 次回発行予定  
 2010年9月の発行を予定しています。

### CONTENTS

トップコミットメント	02
スズクグループ企業理念	03
グループの事業	04
<b>T O P I C S</b>	
1 新事業所スタート① (株)鈴徳 東京営業所	06
2 新事業所スタート② フェニックスメタル(株)市原事業所	07
3 各事業所で施設更新 NNY(株) / (株)鈴徳 浦和営業所	08
4 グループ全体で活動展開 スズクグループ	09
<b>R E P O R T</b>	
1 環境経営による資源リサイクルの推進	10
2 環境マネジメントシステム	12
3 労働安全衛生の推進	14
4 コンプライアンスの徹底	16
5 地域社会への貢献	18
6 人材育成	20
<b>C O L U M N</b>	
廃棄物処理法の動向等	21
<b>P R O F I L E</b>	
グループ概要	22
グループ会社紹介	24
許認可の概要	26
第三者意見	27

# スズトクグループは、循環型社会の担い手として 資源リサイクルを推進しています

スズトクグループは、社会において使用済みとなった廃鋼材類や廃自動車などさまざまな物品を資源として受入れ、解体、分別、中間処分、選別などの処理を行い、利用可能な資源として適正に再生しています。再生した資源は製造業に原材料として供給することで、循環型社会の形成に寄与しています。

天然資源

再生資源

868,400 トン

鉄、非鉄金属、プラスチック、ガラス、古紙

(参考:日本の鉄スクラップ消費量:5,100万トン。07年。日刊市況通信社調べ)

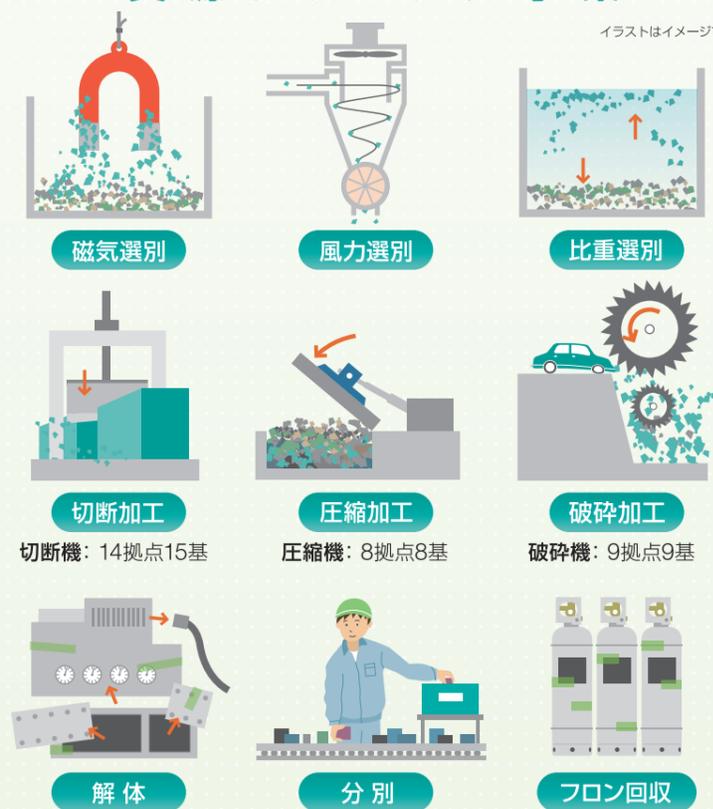
使用消費

製造業



## スズトクグループ 資源リサイクル事業

イラストはイメージです



### エコソリューション事業

全国各地で発生する使用済み資源を適正、効率的にリサイクルするフローや管理システムをご提案します。

## 限りある天然資源を大切に

わが国では、毎年約11億トン\*もの天然資源が使用されていますが、天然資源の枯渇は年々深刻化しています。生産という動脈と使用済み資源の再生利用という静脈のバランスをとり、循環型社会の仕組みを育てることは、社会の健康を保つ上で不可欠です。過去から引き継いだ限りある天然資源を温存して、未来に引き継ぐことが私たちの願いです。

\*05年度の環境省資料をもとに算出

1,002,300 トン

受入資源

排出  
廃棄物

104,600 トン

排出  
CO<sub>2</sub>

17,300 トン

# 新たな拠点で 大型化を実現 品目追加でニーズに対応

## (株)鈴徳 東京営業所

2009年4月、(株)鈴徳 東京営業所(事業所)は東京都江東区新木場に移転し、最新設備を導入して大幅に処理能力を増強しました。また、取り扱う廃棄物の品目を増やし、お客様のニーズに幅広くお応えできる体制としています。



屋上緑化

スズクグループ 環境社会報告書2009

T O P I C S

1

## 事業規模を拡大して 工業専用地域に

墨田区にあった従来の事業所は、周辺の都市化が進み、事業の持続的な展開を図るといった点に限界がありました。そこで、江東区新木場の工業専用地域に約4,100㎡の敷地を確保して、代替となる新しい事業所を開設しました。

施設としては高速のギロチンシャーとプレス機を設置、処理能力は旧施設の約3.5倍となりました。

また、効率的な作業形態を追求して、迅速な受入・処分・出荷が可能な施設配置とし、受入資源と加工後製品の保管



新しい東京営業所

場所も十分に確保しました。

## 環境配慮の下で 受け入れの幅を広げる

新事業所では、処理能力を向上させるとともに、取り扱う廃棄物の種類も増やしました。旧事業所の許可は、金属くず/廃プラスチック類/ガラス・コンクリート・陶磁器くずでしたが、紙くず/木くず/繊維くず/がれき類を加え、従来に比べて幅広い廃棄物の受け入れが可能となりました。

新事業所には敷地内緑化を始めとして、種々の環境配慮処置を講じていま



ギロチンシャー



事業拡大の  
新ステージへ

(株)鈴徳  
専務取締役 加藤 千明

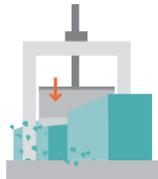
処理能力の大幅アップと取扱品目の増加によって、多種多様な廃棄物の受け入れ体制が整いました。この新木場で事業の拡大に努めて、循環型社会の形成に少しでもお役に立てればと願っています。

す。施設の騒音振動に対しては、低騒音低振動型機器の採用と防音壁や振動吸収装置を設けて、環境の保全を図りました。

また、主要機器電動機の高効率化、門灯への自然エネルギー利用、一部の給水動力の低減などにより、エネルギー使用量の削減にも配慮しています。

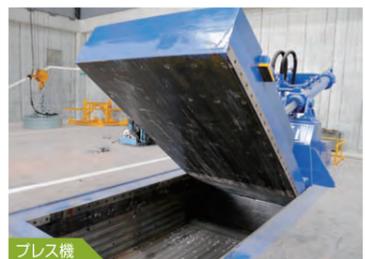
### 切断加工

建材などの長い材料を一定の長さに切断する加工方法。通称「ギロチンシャー」や「シャーリング」と呼ばれる切断機を使用。



### 圧縮加工

使用済み物品を圧縮し、成形する加工方法。主として輸送効率を上げる処置として行われる。廃自動車のように大きなものを圧縮することもある。通称「プレス」と呼ばれる圧縮機を使用。



プレス機

# 破碎能力を大幅増強 グループ内の連携強化へ

## フェニックスメタル(株) 市原事業所

フェニックスメタル(株)も近隣地の新事業所に移転し、2009年4月に操業を開始しました。事業の内容は移転前と変わりませんが、大型の新鋭施設導入による大規模な処理と操業の安定性によって、グループにおける資源リサイクルと廃棄物処理の役割を拡大しました。



スズクグループ 環境社会報告書2009

T O P I C S

2

## 新シュレッダーで ネットワークを強化

新規に導入したシュレッダーの動力は3,500馬力で、旧施設に比べ約3倍の処理能力を持っています。

使用済み資源の適正で効率的な処理を目指して、グループは従来から東京湾岸に点在する事業所群のネットワーク化を進めてきました。大型シュレッダーの導入は、ネットワークの破碎能力を大幅に強化したことになります。グループ内外から事前処理された廃棄物を本施設に集約的に受入れて、破碎処理による資源リサイクルを大規模に、且つ、安



高度な排水処理施設

定して行う役割を担っています。

## 環境や情報公開にも配慮

新事業所の建設にあたって、環境影響の低減を特に重視しました。

施設の騒音振動対策をはじめ、環境影響評価に基づく諸側面に対しても、万全を期して対策を講じています。特に、雨水排水では、集中豪雨時の大型貯水槽をもつ高度な排水処理施設を設置し、東京湾の排水基準に適合する水質としています。

また、開かれた事業所を目指し、工場見学を積極的に受入れる体制とし



専用見学通路のある家電リサイクル棟



開かれた事業所を  
目指したい

フェニックスメタル(株)  
工場長 佐藤 正彦

従来の工場では、専用の見学者通路がないため、作業状態によっては見学者の受け入れが安全上困難でした。新しい工場では、廃家電リサイクルの作業現場を安全に見学できるように全長105mの専用通路を設置しました。

た。外来者が安全に見学できる通路や交流スペースなどを設け、地域や利害関係者の皆さまに、グループ事業の実態や意義をご理解いただけるよう配慮しています。

### 破碎加工

鉄や非鉄金属、プラスチックなどの複合材料からなる使用済み物品の処理に用いる。シュレッダー内の高速回転体に取り付けたハンマーで投入原料を強打して、ばらばらに破碎し、金属類と非金属類を後続の選別装置で分離可能な状態にする加工方法。



新シュレッダー

# 各事業所で施設を更新 安定して事業を推進

## NNY(株)那須事業所 (株)鈴徳 浦和営業所

グループは安定操業を重視して施設の維持管理に努めています。また、処理能力の増強や新規施設への入替・更新も積極的に進め、最適な設備により安定した資源リサイクル事業を行います。

スズクグループ 環境社会報告書2009

TOPICS

3

## 比重選別関連施設を 大幅改修

### NNY(株)那須事業所

廃棄物等の破碎処理で得られるミックスメタル(非鉄金属類と廃プラスチック等非金属類の混合体)を比重選別し、金属類を回収することが主事業の一つです。2008年末から2009年1月にかけて、比重選別処理能力の増強と施設の老朽化に対する改修を行いました。

具体的には、ミックスメタル移送能力の増強、水使用原単位の改善、比重調整用重液消費量の削減、排水処理施設の



排水処理設備 NNY(株)

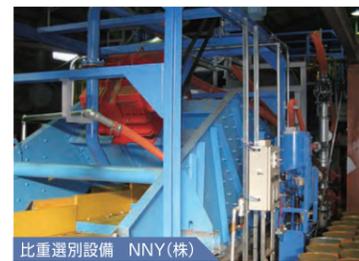
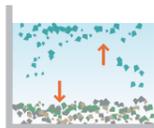
一部更新などです。

その結果、ミックスメタルの処理能力は従来の約1.8倍となり、操業安定性と製品品質は大幅に向上しました。

今後は操業ノウハウを蓄積し、施設の維持管理も含めた比重選別技術の向上を更に追求していきます。

#### 比重選別設備

ミックスメタルを選別するための設備。水より比重の大きい液体(重液)を用いて、ミックスメタル中の特定の物質を浮上又は沈降させて分離・回収。NNYの比重選別は2種類の重液を使い、2段階で分離・回収する。



比重選別設備 NNY(株)

処理能力向上で  
受け入れ拡大へ



NNY(株)那須事業所  
川井 学

今回の設備改修により、安定した操業ができるだけでなく、処理能力を大幅に増加させることができました。今後は、それに見合う原料の受入量増大に努め、事業を拡大したいと考えています。

## ギロチンシャー(切断機) を更新

### (株)鈴徳 浦和営業所

2009年2月に老朽化したギロチンシャーを更新しました。

これまでの設備は、長期使用のため老朽化が著しく、特に切断部に修復困難な劣化が進み能力の低下が生じていました。更新により処理能力が回復し、今まで以上に安定した操業でご要望にお応えできるようになりました。



ギロチンシャー (株)鈴徳 浦和営業所

# グループ共通課題は 組織の横断的取り組みを

## スズクグループ

共通課題はグループの総力を注ぎます。今年はリスク管理やCO<sub>2</sub>対策、またシュレッダー施設問題などを共通課題と捉えました。

スズクグループ 環境社会報告書2009

TOPICS

4

## リスクの共通認識化

グループの事業運営に影響を与える諸問題を抽出してリスクマップを作成しました。

まず、外部機関支援の下で、経営・法務・事故災害等6分野についての議論を経て、グループのリスクと成り得る要因を抽出しました。次に、抽出した諸要因は発生頻度や影響の重さで評価し、そ

の結果を2次元座標にプロットして、諸リスクを「見える化」しました。

これにより、グループ各社のリスク要因が明確となり、経営層の意識共有化に活かされています。

今後、特に重視すべきリスクに対しては対応マニュアルの制定なども視野に入れ、管理を一層強化していく予定です。

## 温室効果ガス削減への対応

再生資源の使用は、天然資源を原料とした製品の製造に比べて温室効果ガスの発生を大幅に減らせます。その意味で、グループの資源リサイクル事業そのものは、温室効果ガス削減に大きく寄与していると言えます。

一方、事業活動では電力や燃料などを大量に使用しており、温室効果ガスを排出しています。その対処に備え、事業

活動(処分、運搬)で使用したエネルギー起源の温室効果ガス算定に取り組んでいます。本年度は排出量の正確性と網羅性を向上させるべく、モニタリングルールの改善に取り組みました。

中田屋(株)エコソリューション部で開催した全国委託先企業との会議では、CO<sub>2</sub>削減についての社会的意義や関連する法規制、業界が推進する自主行動

## シュレッダー委員会を 組織し、施設管理を強化

大型シュレッダー施設を有する8事業所を対象とした「スズクグループシュレッダー委員会」を組織し、施設に関する様々な課題の検討を続けています。

メンバーは当該事業所の長と施設管理担当者としています。検討テーマとして、施設稼働率の向上、維持管理ノウハウの共有、収益性の改善などを取り上げて、定期的に検討会を開いています。活動の成果は、施設の安定操業や収益性向上などに表れてきています。

## お客様の ご期待に応えたい

スズクグループ  
シュレッダー委員会 委員長  
神保 正徳  
(NNY(株)代表取締役社長)

グループは8基の大型シュレッダーを所有しています。今回、シュレッダー技術を共通課題として取り上げ、施設のあらゆる側面について情報を交換し合い、相互に向上を図る機会を設けました。事業所間のノウハウを共有し、課題に対して共に取り組むことは非常に有益であると実感しています。安定的に、そして効率的に操業することで、お客様の適正処理ニーズに対し、グループ一丸となって今後もお応えしていきます。



シュレッダー委員会メンバー

計画、また削減に向けたグループの方向性などについてご紹介しました。

# 環境経営による資源リサイクルの推進



グループは、使用済み資源を受け入れて中間処理し、再生資源として社会に還流(リサイクル)させることを主たる業務としています。また、業務を行う上で出来る限り環境負荷(エネルギーや用水の使用量、CO<sub>2</sub>排出量、廃棄物の排出量等)を下げるように心がけています。

## 1 資源リサイクル及び環境負荷の全体像

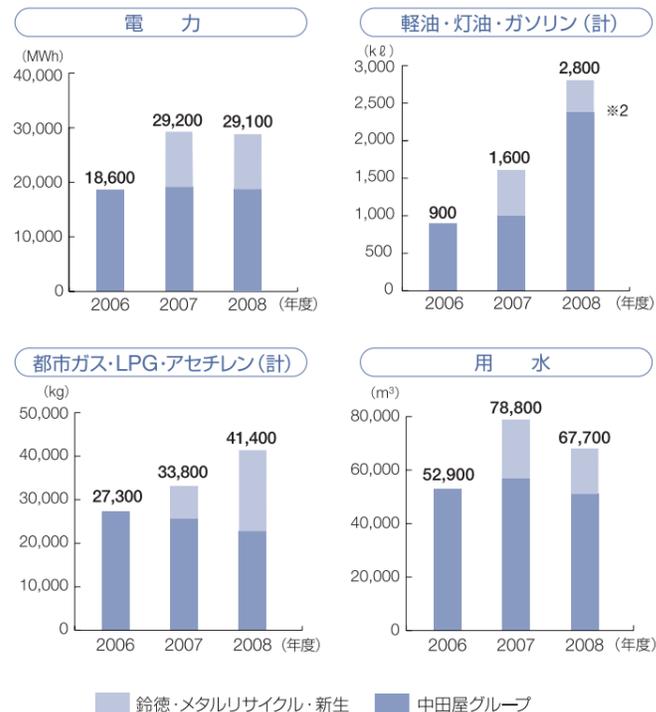
### 受け入れ資源量(1,002,300 t)

● 金属スクラップ	725,400 t	● 産業廃棄物	69,500 t
● 廃自動車	164,900 t	● 廃自販機	10,300 t
● 廃家電	30,500 t	● 古紙	1,700 t

### 事業所のエネルギー等使用量

● 電力	29,100 MWh
● 軽油・灯油・ガソリン	2,800 kℓ
● 都市ガス・LPG・アセチレン	41,400 kg
● 用水	67,700 m <sup>3</sup>

エネルギー等使用量の推移 ※1



#### ■データ算出範囲の変更について

※1 エネルギー等使用量に関して、2006年度は中田屋グループのみ、2007年度以降はスズクグループ全社を算定範囲としています。  
 ※2 昨年度までの軽油量には物流使用分を算定していません。本年度より算定範囲に含め、CO<sub>2</sub>排出量もこれに伴って増加しています。

## INPUT スズクグループ OUTPUT



## 再生資源は、CO<sub>2</sub>排出抑制に大きく貢献

CO<sub>2</sub>削減効果 = 約**173**万t-CO<sub>2</sub>※

新たな天然資源の利用に比べ、再生資源の利用はCO<sub>2</sub>排出量の大幅な抑制につながります。

※高炉大手の資料をもとに試算した数値

### 再生資源量(868,400 t)

● 回収鉄	820,400 t
● 回収非鉄金属	37,200 t
● 製紙原料	2,400 t
● その他再資源化物	8,400 t

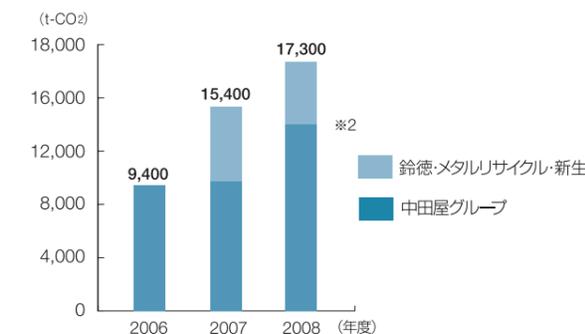
### 発生廃棄量(104,640 t)

● 焼却	54,200 t
● 埋立	50,300 t
● 破壊(フロン類)	140 t

### CO<sub>2</sub>排出量・物流量

● エネルギー使用に伴うCO <sub>2</sub> 排出量	17,300 t-CO <sub>2</sub>
● 荷主としての委託物流量(トンキロ数)	6,100 万トンキロ

エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量の推移



## 2 2008年度の環境投資

2008年度の環境関連投資は、右表のとおりです。資源循環事業拡大のため(株)鈴徳東京営業所とフェニックスメタル(株)の移転を行ったほか、公害防止処置として排水処理施設の改修、騒音対策や粉じん対策の強化、輸送効率向上対策としての減容機増強などを行いました。これからも環境保全のための投資を継続していきます。

2008年度環境投資

単位:百万円

分類	金額	主な投資内容
公害防止コスト	742	・集塵機 ・排水処理設備 ・防音壁
地球環境保全コスト	342	・フロン回収装置 ・収集運搬車両排ガス規制対応
資源循環コスト	11,925	・新事業所建設工事 ・ギロチン更新 ・重液選別装置増強
合計	13,009	

# 環境マネジメントシステム



国際規格 ISO14001に準拠した PDCAサイクルにより、環境活動をスパイラルアップする仕組みを運用しています。本年度は、グループ各社で個別運用していた環境マネジメントシステムを統合して、実務に直結した目標を設定しました。

## 1 環境方針

### 基本理念

地球温暖化を始めとする地球環境問題は深刻さを増し、それらへの対応は人類共通の重要課題となっている。このような状況に対し、スズキグループはリサイクル事業と廃棄物処理事業の推進により循環型社会の形成に貢献することが総合リサイクル業としての社会的使命であると認識し、地球環境及び地域環境の保全と環境負荷の低減に向けて積極的な施策を推進する。

### 基本方針

- (1) ISO14001に適合する環境マネジメントシステムを運用し、継続的に改善するとともに、汚染の予防に努める。
- (2) 当グループの業務に関する法的要求事項及び当グループが同意するその他の要求事項を順守する。
- (3) 業務を通じて一人ひとりが知恵を出し合い、以下に取り組む。
  - ① 資源回収の充実とリサイクルの高度化
  - ② 地域社会への貢献
  - ③ 省資源・省エネルギー・廃棄物の削減
  - ④ 安定した資源リサイクル

2007年11月1日  
スズキホールディングス株式会社  
代表取締役社長 グループCEO 鈴木 孝雄

## 2 環境マネジメントシステムの統合

### EMSの統合と社内教育

グループ内4社で個別に運用していた環境マネジメントシステム(EMS)を統合し、適用範囲をすべての事業所に拡大しました。統合EMSの周知徹底のため、本年度は事業所長研修、内部監査員研修、ISO担当者レベルアップ研修等の社内研修を合計25回実施しています。統合EMSを経営ツールとして活用するために、事業所長研修では各事業所特有の重点管理項目を特定することに重点を置きました。

### EMS内部監査

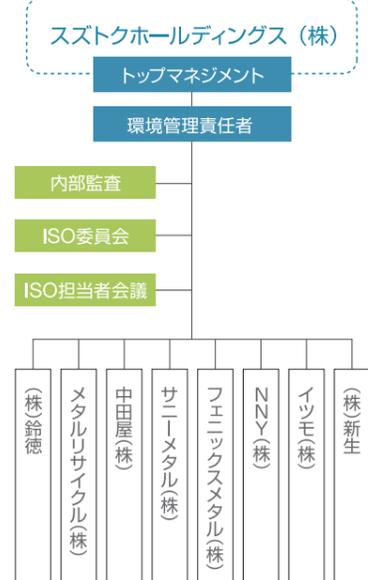
統合EMSにおける目標の有効性・達成状況等のチェックを目的として、全23事業所および委員会を対象に内部監査を実施しています。各事業所の監査員が半日を掛けて相互に監査し、良好点、助言、指摘など計128件を抽出し、改善に結びつけました。

### 統合時マネジメントレビュー

統合EMSの運用状況と改善提案を経営層に報告し、有効な目標設定、コミュニケーション強化、システム簡素化の指示を受けました。

### 認証登録

適用範囲の全事業所に対し、マニュアル及びISO規格に基づいた審査機関による審査が行われ、適合が確認されました。



監査員研修(2008.8.21)

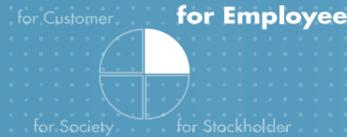
## 3 グループの目標設定と実績(2008年度)

環境方針	省エネ・省資源・廃棄物削減	資源回収の充実とリサイクルの高度化	安定した資源リサイクル(危機管理)	法令順守・汚染の予防	地域社会への貢献	継続的改善
個々の事業所で掲げた主要な目標	燃費 前年度比2%向上	受入量 前年度比3%増加	設備機器の 突然停止ゼロ	排水管理 自主基準値の順守	工場周辺の道路清掃 1回/月以上の実施	業務・環境の改善提案 1人1件/年
	電力使用量 前年度以下に削減	売上 前年度比3%増加	火気不始末ゼロ	粉塵飛散 防止対策の実施	地域社会への貢献 活動参加3回/年以上	個人活動目標 1人1件/年
	紙使用量削減 手順の確立と実施	廃棄物からの 再生資源化率向上	災害ゼロ	油漏れゼロ	利害関係者へ情報提供 1回/3ヶ月	業務資格取得計画の 100%実施
	事務所内使用用紙の 廃棄ゼロ	顧客サービス向上 実施	苦情・トラブルゼロ	汚水外部流出 未然防止策の実施	空気清浄機の寄付 5台/年以上	
	廃棄物削減 リサイクル率76%	営業促進手段 100%実施		騒音・振動 クレームゼロ	市民、学校の見学受入 1件/年以上	
		新規顧客獲得 3件/月		騒音軽減 防音壁の設置		
上記を含め 目標設定件数 <b>14件</b>	上記を含め 目標設定件数 <b>18件</b>	上記を含め 目標設定件数 <b>12件</b>	上記を含め 目標設定件数 <b>24件</b>	上記を含め 目標設定件数 <b>11件</b>	上記を含め 目標設定件数 <b>29件</b>	

目標の達成状況					
目標達成件数 <b>10件</b>	目標達成件数 <b>16件</b>	目標達成件数 <b>9件</b>	目標達成件数 <b>23件</b>	目標達成件数 <b>11件</b>	目標達成件数 <b>28件</b>
<b>目標達成率 90%</b> 事業所全体で108件の目標を設定し、うち目標達成件数は97件でした。					
特記事項					
・活動はこれまで紙・ごみ・電気に偏る傾向がありましたが、08年度は各事業所の実務に即した具体的な目標による活動を重視しました。その結果、リサイクルへの取り組みや個別機器の省エネ課題などの目標が増えました。また、地域社会貢献に対する意識が高まりました。 ・目標未達成11件のうち、6件は受入量増大など営業面での目標です。これらは外部の経営環境変化により達成が困難となりました。その他、クレームとトラブルについてのゼロ目標に対し未達が2件、施設設置の未実施1件(油水分離槽設備更新)、委託先審査手順書作成未実施1件、提案活動未実施1件となっています。					

今後の活動  
・09年度はPDCAの一層の定着により、引き続き実務に即し実行可能性のある活動を目指します。特に、環境トラブルの防止や資源回収の拡大と向上等を継続して行います。

# 労働安全衛生の推進



安全を最優先事項として事業に取り組んでいます。合同委員会でグループ内の情報を共有して、各事業所の職場安全衛生委員会で社員に周知し、具体的な安全衛生活動に繋げています。

## 1 労働安全衛生に対する取り組み

労働安全衛生は、各社の活動に加えグループとしての取り組みも続けています。

扱うものが日々変わる資源リサイクル業には非定常作業が多く、労働安全衛生面のリスクが様々に存在しています。その特徴を意識して、2008年度の標語を「安全作業 会社も家族も みな笑顔」としました。

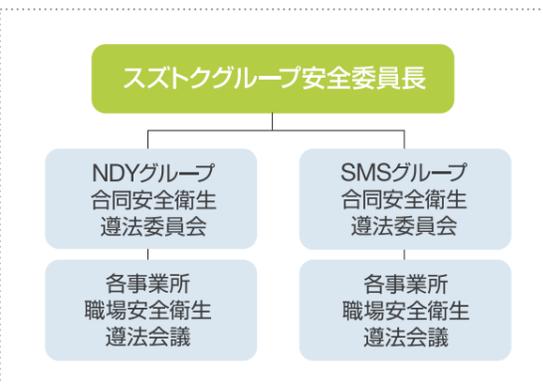
安全意識の向上と安全ルールの順守、安全インフラの整備などに努めて、労働災害の根絶を目指しています。



委員会の会議



委員会の巡視活動



## 2 労働安全衛生体制の拡充

労働安全衛生体制は、スズキグループ安全委員長の下で、NDYグループ《中田屋(株)、サニーメタル(株)、フェニックスメタル(株)、NNY(株)、イツモ(株)》とSMSグループ《(株)鈴徳、メタルリサイクル(株)、(株)新生》で構成しています。

グループ各々の合同安全衛生遵法委員会は四半期ごとに開催し、安全管理の向上と労働災害の予防などについて幅広い討議を行っています。

各事業所では定期的に職場安全衛生遵法会議を開催して、合同会議の内容を周知し、事業所固有の安全衛生に関する諸問題を話し合います。その議事録を次の合同会議に提示し、情報の共有を図っています。

## 3 2008年度の活動

年間計画の下で労働安全衛生活動を行っています。本年の合い言葉は「いつでもどこでもABC 当たり前の事を ポケーっとしないで チャンとしよう」です。

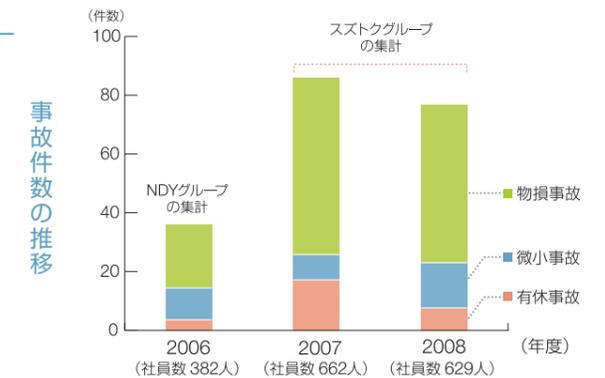
2008年度も人身災害の削減に重点を置きました。安全衛生ビデオによる映像教育、お客様へのヘルメット配布、相互の身だしなみチェック、事業所内の2S維持(整理・整頓の徹底)などを今年度も続けました。また、KY活動による危険性の回避とヒヤリハット制度による危険情報の共有などにも力を注ぎました。

安全意識を向上させる活動の一つとして、目標や標語、安全に関する約束事の決定に社員参加を求めています。

## 4 事故件数の推移

諸活動により安全意識は徐々に根付いています。事故総数は76件であり、前年度に比べて10件減少しました。

本年度も人身事故の防止に注力し、その結果、死亡事故ゼロを維持しています。人身事故総数は21件と前年と同じでしたが、休業を伴う人身事故は5件であり前年に比べて9件減少しました。また、人身を伴わない物損事故は10件減少しています。

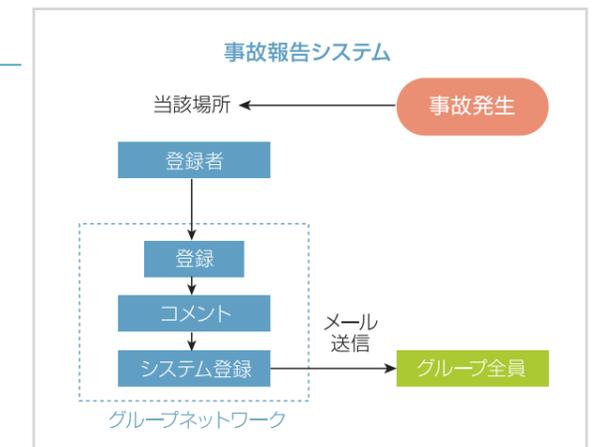


## 5 事故情報の共有化により再発防止

グループネットワークを用いて、全社員に事故情報を速やかに伝達し、情報を共有することによって、類似災害の防止に役立てています。

事故が発生した場合、事故発生事業所が事故概要を原因の分析とともにシステム登録します。次に事業所長とグループ安全委員長、職場安全委員がそれぞれにコメントを追記し、それらを全社員にメール配信して速やかに情報を共有する仕組みとしています。

また、是正措置を含む事故処置完了報告のデータにも、全社員の閲覧を可能としています。



ネットワーク上で、事故報告の登録、コメント追記、送信・周知を実施している。

+
+

VOICE

### 貴重な教訓を胸に 何よりも「安全」にこだわる

**NDYグループ安全委員長 村上 義則**  
(中田屋(株)執行役員加須工場長)

今から10年ほど前、ある工場で2件の重大事故が発生しました。その直後に工場長として赴任することになった私は、こうした事故を決して再発させない決意を固め、安全対策を抜本的に見直し、全精力を傾注して、連日現場において対策の徹底を図りました。

その時点から重大事故は発生していませんが、2008年度に私が中田屋グループの安全委員長に就任したとき、全工場でのこの重大事故に関する記録を読み合わせ、安全に対する想いを再確認しました。事故から得た教訓を決して風化させてはならない、安全が損なわれれば事業の継続ができない。このことを肝に銘じ、今後も安全第一で事業活動に取り組んでいきます。

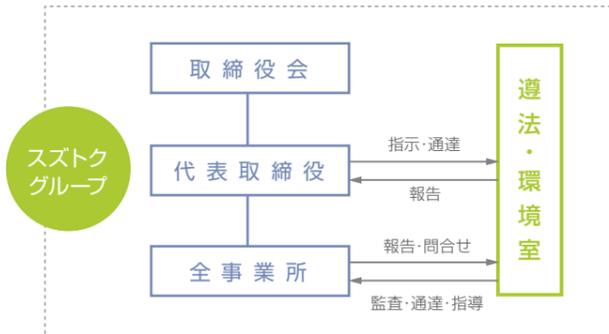
+
+

# コンプライアンスの徹底



産業廃棄物処理事業への諸規制は強まっています。グループは法令等順守を事業上の最優先事項の一つと位置づけて、事業所の遵法監査と事業所全社員に対して廃棄物処理法教育を実施し、適法事業の維持と遵法意識の強化を図りました。

## 1 コンプライアンス体制



スズキホールディングス(株)では、コンプライアンスの確保を主目的として「遵法・環境室」を設置しています。

「遵法・環境室」は、遵法監査を定期的に行い、事業の遵法性を維持します。また、遵法ITシステムの運用により、契約管理や事業所の実務全般における適法性を確認します。そして、社員の遵法に対する知識と意識の向上を図る目的で、階層別の教育計画を作成し運用しています。

## 2 コンプライアンス教育

廃棄物処理法の基本的な規則を理解し、適法に業務を行うことは、廃棄物を取り扱う私たちに不可欠の要件です。

2008年度は、従来から維持していた外部講習会への参加に加え、廃棄物の処理を行う20事業所で廃棄物処理法の社内集合教育を行いました。参加者は全社員で、事業所長をはじめ管理職や事務職、また現場作業職も対象としました。

教育では、最新の情報を含めたグループの新資料と既発行の教育用冊子、また行政発行リーフレットを教材として用い、法令の規制やグループの内規などについて学び合いました。

コンプライアンスの教育は今後も継続します。一定の知識と意識を従業員が常識とし、実務において疑問や違和感を覚えた場合には、行動を中断して適法性を確認する習慣の定着が重要と考えています。



遵法研修の様子(中田屋 加須工場)

### 2008年度に実施した社内教育

#### 廃棄物処理法の規制概要、グループ内規等について

- 実施場所** 合計20事業所  
[内訳]
  - ▶ (株)鈴徳: 7事業所
  - ▶ 中田屋(株): 7事業所等
  - ▶ メタルリサイクル(株): 2事業所
  - ▶ サニーメタル(株): 1事業所
  - ▶ フェニックスメタル(株): 1事業所
  - ▶ NNY(株): 1事業所
  - ▶ (株)新生: 1事業所
- 対象者** 上記事業所に所属する全ての社員(事業所ごとに5~60名)
- 教材** 遵法教育資料(社内作成教材) 06年度教育用小冊子 行政リーフレット 等



遵法研修の様子(NNY)

## 3 監査の実施

グループ発足2年目となる2008年度は、全許可事業所に同一基準の遵法監査を実施しました。

この監査は廃棄物処理事業に携わるグループの事業所に対するもので、廃棄物処理法と各種リサイクル法、フロン回収破壊法、労働安全衛生法、個人情報保護法及びグループ内規などを監査基準としています。遵法監査には終日を費やし、204項目の確認事項を盛り込んだチェックリストを使用しました。また、一定期間を置いた後に行うフォローアップ監査は、遵法監査報告書で提起した諸問題の改善状況確認を目的としています。



遵法監査の様子(鈴徳 児玉営業所)

## 4 監査の結果

中田屋グループは10事業所の監査を行いました。監査で把握した問題点は指摘、提案、推奨の3段階に重要性で分類提起し、それぞれに改善を促しています。提起した項目は総数130、フォローアップ監査(確認監査)で残存する未実施事項は13項目でした。なお、07年度フォローアップ監査時の未実施事項15項目は、全て是正が終了していることを確認しました。

(株)鈴徳、メタルリサイクル(株)、(株)新生も合計10事業所の監査を行いました。その結果、提起した指摘、提案、推奨の総数は265項目でした。大半の事業所は今回が初めての遵法監査であり、主としてグループ内規に対する理解不足が提起項目数に現れました。フォローアップ監査では、未実施事項は55項目に減少し、遵法性の改善は確実に進んでいます。



遵法監査の様子(中田屋 エコソリューション部)

## 5 委託先の訪問・確認

廃棄物の継続処理委託先を訪問し、排出事業者として自主的に委託の妥当性を確認しています。08年度には30社を訪問し、適正処理についての意見交換を行いました。

また新規に処理委託先が提案された場合には、訪問による調査で委託の可否を判断しています。08年度は11社の新規委託先が提案され、訪問の結果、10社を委託可能と判定して委託業務を開始しました。

VOICE

### 遵法監査の指摘を 向上の糧として



(株)鈴徳 藤沢営業所長  
**鈴木 和代**

今年初めて遵法監査を受けた当営業所は、主に委託契約書や廃棄物マニフェストに関係した指摘を受けました。原因は、スクラップの扱いが大半で廃棄物の取扱量は少ないこともあり、廃棄物処理法やグループ規程で定める諸ルールの認識に不足があったと受け止めています。そこで、契約書などの運用を改めながら、事務職全員を外部講習会に参加させて遵法意識の定着を図りました。その結果、フォローアップ監査では遵法性が向上しているとの評価を受けました。また、行政の立入調査では契約書等の管理が良好とのコメントを頂戴しており、グループによる遵法監査の意義を実感しています。



地域と密着した事業を展開するグループ各社は、地元の方々や関係者とのコミュニケーションを大切にしています。また、小中学校の環境教育に協力するなど、地域のニーズを踏まえた社会活動で貢献します。

### 1 小学校で環境教育の出前授業



出前授業の様子

中田屋(株)エコソリューション部は、東京都墨田区立押上小学校の児童(6年生:101名)を対象に、「ちゃんと分けるとリサイクル!」とのテーマで環境教育の機会を頂きました。使用済み自動車を細かくシュレッダーで破碎したものをを用いて、これらの破片が磁石や水槽を利用して次々に分別される実験を行い、リサイクルの仕組みとその重要性をわかりやすく説明しました。参加した児童たちからは大きな歓声が沸き、最後まで熱心に授業を聞いてくれました。

将来の循環型社会を担う次の世代への環境教育はたいへん重要です。今後も機会を頂いて積極的に協力していきます。



#### リサイクルの大切さを 知るきっかけに



VOICE

中田屋(株)  
エコソリューション部係長  
齋藤 ゆき子

磁石などで使用済み自動車の破片が分別される様子を、児童の皆さんは興味津々でした。終了後、「きちんと分別する!」という声があがり、リサイクルの重要性を考えてもらえる機会をご提供できたと思います。

### 3 工場見学への協力

リサイクル事業の社会的な意義を、小中学生や大学生、地域住民や行政機関等の皆様にご理解いただくため、工場見学のご要請には積極的に対応しています。

メタルリサイクル(株)本社工場では、本年度約70名の工場見学者を受入れました。地域の中学生を対象とした見学会では、使用済み自動車解体される工程や、シュレッダーを経て製品と廃棄物に分別される工程などを見ていただき、資源リサイクルや産業廃棄物適正処理の大切さについて理解を深めてもらいました。



工場見学の様子

#### 見学会の感想文から

- 今日の見学会でどのように鉄がリサイクルされるのか学ぶことができました。鉄以外の異物が混ざらないように、細心の注意を払ってリサイクルに取り組んでいることを知ってとても勉強になりました。
- 自動車のリサイクルをするためには、エアバックを処理したりエンジン部分を取り外したり、処理の仕方がたくさんあることが分かって良かったです。解体から破碎処理、出荷までのリサイクルの仕組みを良く理解できました。

### 4 地域の環境美化に貢献

工業団地の皆様や地元行政と連携し、事業所周辺の環境保全や美化活動に取り組んでいます。

サニーメタル(株)大阪事業所は、産業用清掃機「スーパー」を使って周囲の通路を毎日清掃しています。また、地域の工業会が行う不法投棄の監視や路肩のプランター設置などにも協力しました。これらの活動は地域の方々との貴重なコミュニケーションの機会となっており、今後も継続していきます。



近隣の清掃活動の様子

### 5 車椅子のお年寄りをお手伝い

(株)鈴徳 藤沢営業所は、藤沢湘南ライオンズクラブが主催した車椅子のお年寄りの江ノ島「見学会」に協力しました。

江ノ島の頂上にある展望台までは階段が多く、車椅子で行くことは困難です。当日は会員ら230名が協力し、介護車両で往復するなどして27名のお年寄りを頂上の展望台までお連れしました。地域のお年寄りに喜んでいただけるこのようなイベントには、今後も積極的に参加したいと思っています。



車椅子のお年寄りの見学会に協力



消防訓練の様子



### 2 地元消防の訓練へ 中古自動車を貸し出し

メタルリサイクル(株)は、埼玉県川越地区消防局が行う救命救助訓練に資材を提供しています。

本年度は川越地区の消防局が合同で開催する訓練に中古自動車4台を提供し、自動車内に閉じ込められた市民の救命救助訓練に利用していただきました。今後も、地域の安全確保を担う地元消防への協力を積極的に行っていきます。

# 人材育成



社員一人ひとりの個性と能力を尊重し、活力のある職場とするため、様々な社内研修や働きやすい職場環境づくりに取り組んでいます。また、グループの多様性を活かした会社間の技術研修も実施しています。

## 1 グループ会社間の技術研修

各社間の技術研修を推進しています。グループは、取扱い品目や設備、人材、地域など多くの面で特徴のある事業会社で構成されています。そこで、他社の持つ技術や業務上のノウハウを修得し、自社の事業に活かすことによって、グループ全体としての発展を目指す取り組みを行っています。

VOICE

### グループの総合力を 実感した技術研修



(株)鈴徳  
児玉営業所  
**衣袋 勉**

2008年6月から3カ月間、非鉄金属の選別業務を修得するために、中田屋(株)富士非鉄工場にて技術研修を受けました。

約300種類もある非鉄金属の選別は難しいものでしたが、「非鉄の神様」と呼ばれる工場マネージャーのご指導により、分析機器の使用法を初め、選別業務を何とか修得することができました。この経験を活かし、(株)鈴徳 児玉営業所の非鉄事業のレベルアップと拡大を目指します。富士非鉄工場の皆さんのお客様への丁寧な対応や仕事へのひたむきな姿勢も学び、良い刺激となりました。グループ会社間の研修や交流はたいへん意義深いと実感しています。

## 4 働きやすい職場づくり

社員一人ひとりを個人として尊重し、働きやすい職場環境をつくることは企業理念の一つです。中田屋(株)は、次世代育成支援対策推進法に基づき一般事業主行動計画を策定し、仕事と家庭生活の両立(ワーク・ライフ・バランス)に努めています。2008年度には、職場風土改革促進事業の取り組みを社内外に

## 2 Eラーニング

従来の社員教育は、集合教育や外部セミナーを中心とするものでしたが、これらに加えて、2008年11月よりEラーニングによる教育をスタートしました。



Eラーニングの様子

Eラーニングは、日常業務全般にわたる基礎知識、グループ内で利用する基幹システムの操作方法、マニフェスト管理システム運用方法などのシステム関連13コンテンツから成ります。主な受講者は新入社員や各事業所の事務職の社員で、各自のパソコンを使用して20分から3時間程度、自己教育をします。

今後はコンテンツの種類を増やし、教育手法のひとつとして定着させ、効率的な教育を充実させていきます。

## 3 海外研修

国外の廃棄物処理・リサイクル業界の実情視察と知見の拡大を目的として、毎年、各社の幹部や社員が海外研修会に参加しています。



海外研修の様子(中国にて)

2008年度は中国、韓国、ベトナム及びマレーシアへの海外研修に参加しました。中国では非鉄金属の処理ビジネスの現況を視察したほか、当グループが輸出したヘビーミックスメタル(非鉄金属の混合物)の同国内流通ルートなどを視察しました。また、韓国、ベトナム、マレーシアでは電炉業者やスクラップ業者の工場などを視察し、市場ニーズなどについての情報を交換しました。

公表し、管理職層への研修や両立支援制度の対象となる社員へ周知を行いました。勤務体制や仕事の進め方を見直し、情報共有の仕組みづくりや社員が相互にカバーできる体制を整備しています。また、時間外勤務についても、実態を把握して労基法の基準順守に努めています。



# 廃棄物処理法の動向

2009年4月  
弁護士 佐藤 泉

廃棄物処理法は、平成12年に委託基準の強化やマニフェストE票の追加などの大改正を行ってからは、木製パレットの産廃化等の比較的小さなものの改正を除き見直しが行われていません。しかし、自治体レベルでは次々と新しい条例が制定されており、県外廃棄物流入対策や施設設置の事前手続、排出事業者の現地確認義務化等が定められています。さらに、新たな政令都市や中核都市ができることにより、産業廃棄物の許認可権をもつ自治体は109にも上っています。このような状況は、広域処理を基本とし、さらに循環型社会形成を目的とする国の政策には逆行する部分があり、排出事業者及び処理業者にとっても負担となっています。

そこで、現在、環境省の中央環境審議会では、廃棄物処理法の改正を含む制度の見直しが検討されています。その内容は、排出事業者に対する規制強化、欠格要件の見直し、収集運搬許可手続の簡素化、安定型最終処分場等の安全性の向上、広域認定制度の利用拡大など多岐

にわたっています。また、電子マニフェストの普及率は向上しているものの、十分とはいえない状況です。産業廃棄物処理業者の優良性評価制度の効果にも疑問が出されています。さらに、依然として不法投棄があとをたない現状であること、低炭素社会との統合も取り上げられています。このなかでも、特に国と自治体間で、法の解釈及び運用をどう統一していくかは、重要な課題でしょう。

廃棄物処理法制度の見直しについて、今年の秋頃には審議会の結論が明らかになるようです。但し、現在自民党と民主党の政権争いが生じており、選挙の時期によっては法案の審議時期が変わってくる可能性もあります。また、廃棄物問題は、経済産業省、農水省、国交省等他省庁にもまたがる部分があり、省庁間の調整も必要になってくると思われます。さらに、資源価格の乱高下や自治体の財政難も、改正に影響を与える可能性があります。このようななかで、改正の動向は予断を許さない状況といえます。

## 平成20年度の法令等情報

2009年4月  
スズキホールディングス(株) 遵法・環境室

グループ事業に係る平成20年度の法令等改正、通知・告示は下記に止まりました。

- 政令** 特定家庭用機器再商品化法施行令の一部を改定する政令  
(平成20年12月5日 政令第367号 施行期日 平成21年4月1日)  
①テレビジョン受信機に液晶式及びプラズマ式のものを追加 ②再商品化対象機器に衣類乾燥機を追加  
③電気洗濯機及び衣類乾燥機の特定物質等である冷媒の回収義務を追加 ④再商品化率の変更
- 告示** 特定家庭用機器廃棄物の再生または処分の方法を定める環境大臣が定める方法の改正  
(平成21年3月27日 環境省告示第9号 施行期日 平成21年4月1日)  
①資源回収対象にプラスチックを追加 ②液晶式廃テレビジョン受信機の処理方法を指定  
③特定物質等である冷媒の回収対象に廃電気洗濯機と廃衣類乾燥機を追加
- 通知** 産業廃棄物に関わる立入検査及び指導の強化について  
(平成20年5月16日 環廃産発第080516001号)  
全自治体へ、処理業者への立入検査における留意事項等と立入検査票書式を通知

# グループ概要



関係する人々の満足度最大化を求め、社会環境の変化に対しては適切な変革を続けて、情報公開の下で健全な企業経営を進めます。

## ■ スズトクホールディングス(株)の概要

**社名** スズトクホールディングス株式会社  
(SUZUTOKU Holdings Co., Ltd.)

**設立** 2007年7月2日

**所在地** 〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19

**代表者** 代表取締役社長 鈴木 孝雄

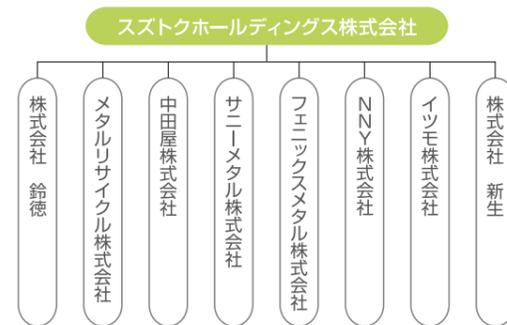
**資本金** 100百万円

**事業内容** グループの事業統括

- 経営統括・戦略立案
- ITシステム開発・管理
- コンプライアンス・環境・ISO・安全衛生関連業務
- 管理部門サポート

**連絡先** 〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル  
TEL:03-3293-6302  
FAX:03-3295-7169  
E-Mail:holdings@suzutoku.co.jp

## ■ グループ組織図



## ■ 主な財務関連データ

売上高 *1	724.5億円
経常利益 *2	12.9億円
従業員数 *3	629人

※1 ※2 事業年度  
 ・(株)鈴木、メタルリサイクル(株):2008.3.1~2009.2.28  
 ・中田屋(株):2007.11.1~2008.10.31  
 ・サニーメタル(株)、フェニックスメタル(株)、イツモ(株):2008.4.1~2009.3.31  
 ・NNY(株):2007.9.1~2008.8.31  
 ・(株)新生:2008.5.1~2009.4.30  
 (連結決算ではなく、各社単体の決算書類の数値を合算した)

※3 2009年6月1日現在の人員、経営者層を含み、派遣、請負作業の従事者は除く

## ■ 沿革(グループの歩み)

年	月	事項
1904年(明治37年)	2月	▶鈴木:創業者 鈴木徳五郎 浅草で屑物一般の売買を始める
1935年(昭和10年)	2月	▶鈴木:株式会社 鈴木徳五郎商店として法人設立
1951年(昭和26年)	1月	▶中田屋:東京都荒川区に、製鋼原料、製紙原料の販売を目的として株式会社 中田屋商店を設立
1969年(昭和44年)	12月	▶メタルリサイクル:関東製鉄株式会社 川越工場として設立 (その後1972年、1986年に社名・組織変更、2001年3月にメタルリサイクル株式会社として当グループに参加)
1970年(昭和45年)	3月	▶メタルリサイクル:日本初のシュレッダーを導入
1972年(昭和47年)	7月	▶鈴木:社名を株式会社 鈴木に変更
1980年(昭和55年)	5月	▶中田屋:社名を中田屋株式会社に変更
1986年(昭和61年)	6月	▶サニーメタル株式会社設立
1987年(昭和62年)	12月	▶フェニックスメタル株式会社設立
1989年(平成元年)	10月	▶NNY株式会社:那須中田屋株式会社として設立 (2003年5月に社名変更)
1993年(平成5年)	10月	▶株式会社 新生設立(2006年、当グループに参加)
1995年(平成7年)	4月	▶イツモ株式会社:中田屋の運送部門として別会社化 (2002年2月に現社名に変更)
1999年(平成11年)	6月	▶鈴木:ISO14001認証取得(児玉営業所)
2000年(平成12年)	12月	▶中田屋:ISO14001認証取得(本社、千葉工場他)
2001年(平成13年)	4月	▶家電リサイクル業務を開始(中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY)
2003年(平成15年)	6月	▶メタルリサイクル:ISO14001認証取得
	12月	▶鈴木:中田屋及び同社の関連会社をグループ化
2004年(平成16年)	2月	▶鈴木:100周年
	6月	▶新生:ISO14001認証取得
2005年(平成17年)	1月	▶自動車リサイクル業務を開始 (鈴木、メタルリサイクル、中田屋、サニーメタル、フェニックスメタル、NNY)
2007年(平成19年)	7月	▶グループの持株会社としてスズトクホールディングス株式会社を設立
2008年(平成20年)	12月	▶ISO14001をスズトクグループで統合

## ■ 事業所一覧

### スズトクホールディングス株式会社

- 本社
- 管理部、システム部、遵法・環境室

### 株式会社 鈴木

- 本社
- 1 東京営業所
- 2 川崎営業所
- 3 藤沢営業所
- 4 船橋営業所
- 5 千葉営業所
- 6 浦和営業所
- 7 児玉営業所

### メタルリサイクル株式会社

- 1 本社工場
- 2 千葉営業所

### 株式会社 新生

- 1 本社・工場



### 中田屋株式会社

- 本社
- 1 船堀工場
- 2 加須工場
- 3 千葉工場
- 4 富士工場
- 5 富士非鉄工場
- 6 相模原工場
- 7 伊勢崎工場
- 8 袖ヶ浦 SHIPPING センター

### サニーメタル株式会社

- 1 大阪事業所 ●本社

### フェニックスメタル株式会社

- 1 市原事業所 ●本社

### NNY株式会社

- 1 那須事業所 ●本社

### イツモ株式会社

- 本社

# グループ会社紹介



グループは発足して2年目を迎えました。発足時に計画した統合と分散の組織は、有効に機能して各社の事業展開を支えています。

## 株式会社 鈴徳

鉄を中心とした金属のリサイクルと廃棄物の処理を実施。105年の事業実績を背景に、東京及び近郊の7拠点で事業を展開。09年、東京の拠点を新事業所に移転。

[p.6トピックス1参照](#)

創業	1904年2月
本社所在地	〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19
連絡先	Tel 03-3631-5472
資本金	1,000万円
売上高	20,935百万円 (2009年2月期)
社員数	107名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	339,290 t
産業廃棄物	9,860 t
廃自動車	10,970 t
廃自販機	460 t

## イツモ株式会社

グループの物流を担当し、1都24県26市で産業廃棄物収集運搬業を営む。一般貨物自動車運送業や第一種利用運搬業の許可も保有。

設立	1995年4月
本社所在地	〒263-0004 千葉県千葉市稲毛区六方町210
連絡先	Tel 043-423-3415
資本金	5,000万円
売上高	1,343百万円 (2009年3月期)
社員数	70名 (2009年6月1日)

### 保有輸送用車両

2トン車	1台
4トン車	3台
6トン車	8台
トラック	23台
セミトレーラ	24台
15トンドンプ	20台
15トントラック	13台
(計92台)	

## メタルリサイクル株式会社

国内で初めてシュレッダーを導入。金属のリサイクルと廃棄物の処理に加え、廃自動車の引取りから破砕までの一貫処理に特徴。高品質の自動車中古部品類の販売にも注力。

設立	1999年11月
本社所在地	〒350-0166 埼玉県比企郡川島町戸守440
連絡先	Tel 049-297-2111
資本金	9,000万円
売上高	6,329百万円 (2009年2月期)
社員数	107名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	49,210 t
産業廃棄物	5,170 t
廃自動車	39,960 t
廃自販機	2,870 t

## 株式会社 新生

関東を中心に1都9県13市で産業廃棄物収集運搬業を営む。古紙回収とリサイクル、また機密文書処理も実施。

設立	1993年10月
本社所在地	〒355-0812 埼玉県比企郡滑川町都25-21
連絡先	Tel 0493-57-2170
資本金	3,000万円
売上高	3,589百万円 (2009年4月期)
社員数	24名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目等

古紙	840 t
金属スクラップ	10 t
産業廃棄物	3,080 t
産業廃棄物の収集運搬業	
保有輸送用車両	
2トン車	5台
4トン車	12台
10トン車	1台
(計18台)	

## 中田屋株式会社

関東及び静岡県に8拠点を有し、鉄や非鉄金属のリサイクル、産業廃棄物・廃自動車・廃家電・廃自販機・廃OA機器等の中間処理を幅広く実施。

設立	1951年1月
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3
連絡先	Tel 03-3293-6781
資本金	10,000万円
売上高	32,729百万円 (2008年10月期)
社員数	189名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	268,500 t
産業廃棄物	36,800 t
廃自動車	49,120 t
廃家電	10,720 t
廃自販機	3,330 t

## サニーメタル株式会社

グループ唯一の関西地区事業場。産業廃棄物、廃自動車、廃家電、資源ごみ等の処理を実施。地域唯一のシュレッダーを所有。分別による資源リサイクルを強化。

設立	1986年6月
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3
事業所所在地	〒554-0052 大阪府大阪市此花区常吉1-1-13
連絡先	Tel 06-6461-2818
資本金	10,000万円
売上高	2,346百万円 (2009年3月期)
社員数	36名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	13,520 t
産業廃棄物	5,230 t
廃自動車	25,030 t
廃家電	2,330 t
廃自販機	1,840 t

## フェニックスメタル株式会社

鉄スクラップをはじめ、産業廃棄物、廃家電及び廃自動車等の大規模処理に特色。冷蔵庫等の断熱材フロン回収も実施。09年、近隣地の新事業所に移転。

設立	1987年12月
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3
事業所所在地	〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通7-3
連絡先	Tel 0436-43-1261
資本金	10,000万円
売上高	6,002百万円 (2009年3月期)
社員数	42名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	53,050 t
産業廃棄物	4,550 t
廃自動車	34,220 t
廃家電	13,910 t
廃自販機	1,820 t

## NNY株式会社

非鉄金属の選別回収を事業の柱とし、産業廃棄物、廃家電及び廃自動車等の処理を実施。プラスチックリサイクルも手掛ける。近隣の第二事業所と一体運営。

設立	1989年10月
本社所在地	〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3
事業所所在地	〒324-0036 栃木県大田原市下石上1505-11
連絡先	Tel 0287-29-2777
資本金	5,000万円
売上高	2,435百万円 (2008年8月期)
社員数	26名 (2009年6月1日)

### 取扱い品目

金属スクラップ	1,840 t
ミックスメタル	17,900 t
産業廃棄物	1,760 t
廃自動車	150 t
廃家電	3,520 t

# 各社の強みと 特色を生かして 社会の 要請にお応えします

### グループ会社 代表取締役社長

前列左より● (株)鈴徳 鈴木徹 / スズクホールディングス(株) 鈴木孝雄 / 中田屋(株) 伊藤清

後列左より● メタルリサイクル(株) 島元和生 / イツモ(株) 太田善晃 / フェニックスメタル(株) 水口剛志 / サニーメタル(株) 大島延夫 / NNY(株) 神保正徳 / (株)新生 中田光一



※取扱い品目：2008.7.1～2009.6.30、保有輸送用車両：2009.4.1現在

■ 許認可・登録の概要(取得自治体数)

(2009年6月末現在)

会社名	産業廃棄物			一般廃棄物		自動車リサイクル			優良性評価制度		
	中間 処分 業	収集 運搬 業	特別 管理 収集 運搬 業	処 分 業	収集 運搬 業	引取 業 フロン 類回 収業	解体 業・ 破砕 業	第一 種フ ロン 類回 収業	再 生事 業者 登録	処 分 業	収集 運搬 業
株式会社 鈴徳 <a href="http://www.suzutoku.co.jp/">http://www.suzutoku.co.jp/</a>	6	15		1	1	3	3	4	7	5	7
メタルリサイクル株式会社 <a href="http://www.metal-r.co.jp/">http://www.metal-r.co.jp/</a>	2	17	3			2	2	2	1		
中田屋株式会社 <a href="http://www.ndy.co.jp/">http://www.ndy.co.jp/</a>	6	10				4	5	9	6	3	5
サニーメタル株式会社 <a href="http://www.sunny-metal.co.jp/">http://www.sunny-metal.co.jp/</a>	1	18					1	1	1	1	16
フェニックスメタル株式会社 <a href="http://www.pmc.to/">http://www.pmc.to/</a>	1	3		1		1	1	1	1	1	2
NNY 株式会社 <a href="http://www.nnycorp.co.jp/">http://www.nnycorp.co.jp/</a>	1	5		1	2	1	1	1	1	1	4
イツモ株式会社 <a href="http://www.suzutoku.co.jp/itm/">http://www.suzutoku.co.jp/itm/</a>		51									
株式会社 新生 <a href="http://www.shinsei-env.co.jp/">http://www.shinsei-env.co.jp/</a>	1	23	10	1	1				1		

→ 詳細は各社ホームページをご覧ください。

■ 産業廃棄物処理業者の優良性評価制度への取り組み

優良性評価制度は、産業廃棄物処理業者の事業順法性、情報公開性、環境保全への取り組み、その他要件が法令に定めた基準に適合していることを、申請を受けた都道府県知事等が審査して認定するものです。

グループは、制度スタート以来順次申請を進め、現在11事業所(対象事業所数16)で認定を取得しています(2009年6月末現在)。最終的には、全ての事業所が適合認定を受ける予定です。

第三者意見

スズクグループ  
「環境社会報告書 2009」への  
第三者意見

千葉大学法経学部教授 倉阪 秀史 氏



Profile

千葉大学法経学部教授。専門は、環境政策論、環境経済論。環境庁において環境基本法や環境影響評価法の制定、企業の環境対策促進などを手掛けた後、大学に移り、2008年から現職。千葉大学の環境管理責任者も務める。著書に『環境政策論第二版』(信山社)など。

グループの企業理念である「4つの責任」に対応する形でわかりやすく記載されています。

スズクグループは、お客様に対する責任、社員に対する責任、社会に対する責任、株主に対する責任という「4つの責任」を企業理念に掲げています。環境社会報告書2009では、この「4つの責任」に対応する形でわかりやすくグループの取り組みが記載されており、読みやすい報告書だと感じました。

本業が循環型社会の実現に貢献しています。

スズクグループの特長は、本業を発展させることが循環型社会の実現に直接につながることにあります。循環型社会を実現するためには、法規制を遵守し、安全な労働環境も確保している健全な資源リサイクル事業が社会的に評価され、発展していかなければなりません。スズクグループは、世界的な景気後退の中にもかかわらず大幅な環境投資を実現しており、この業界のリーディングカンパニーとして活躍が期待されます。

継続的な改善のために  
グループ横断的な取り組みが有効に使われています。

この報告書では、スズクグループが、法規制の遵守と労働環境の安全確保を図るために、グループ横断的な取り組みを有効に活用している状況が示されています。法規制の遵守については、グループとしてコンプライアンス教育を開始し、同一基準で全事業所への遵法監査が行われています。最初の監査であったため、多くの指摘事項が出された旨が記載されていますが、指摘事項の多さは継続的な改善に向けた最初の取り組みとして効果があったという証左だと思います。しっかりフォローアップを行って、確実に改善していかれることを期待します。事故の防止についても、グループで事故情報を共有する仕組みを構築するなどの工夫がみられます。重大事故ゼロを目指して、さらに取り組みを進めていただくようお願いいたします。

グループとしての継続的な改善が  
経年で追えるように工夫が望まれます。

この報告書は、スズクグループの持ち株会社であるスズクホールディングスが設立されてから2回目の報告書です。このため、年々データの測定範囲が変わっており、まだ、グループ全体としての取り組みが経年で改善しているかどうかを、グラフで十分に表すことができていない状況です。今後、グループ全体での継続的な改善が、経年データで追えるように工夫していただくことを期待します。



「エイブルアート・カンパニー」登録作品より  
藤橋 貴之「木造の家である」

エイブルアート・カンパニーは障害のある人のアートを社会に発信し、〈仕事〉につなげる中間支援組織です。アーティストの作品を商品化したり、デザインとして使える仕組みをつくっています。

URL <http://www.ableartcom.jp/>

## スズクホールディングス株式会社

本社

〒130-0021 東京都墨田区緑1-4-19

お問い合わせ

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-18-3 錦三ビル

TEL: 03-3293-6302 FAX: 03-3295-7169

ホームページ <http://www.suzutoku.co.jp/ho/>



古紙パルプ配合率100%再生紙を使用



この「環境社会報告書2009」は古紙パルプ配合率100%のリサイクル紙と、VOC（揮発性有機化合物）の発生が少なく生分解性や脱墨性にすぐれた大豆インキを使っています。



有機溶剤等を使用しない環境に優しい「水なし印刷」で印刷しています。



### グループ紹介誌「ecoo」のご案内

スズクグループは、グループ紹介誌「ecoo」（エクー）を年2回発行しています。社外関係先の方々に配布する他、グループ従業員の意識共有やコミュニケーションに役立てています。弊社ホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。